

3 協働事業実施状況（平成28年度）

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分 協働事業の目的	実施事業内容等
1	町内会加入促進のモデル地区への支援 (市民自治推進課)	単年度（新規）実施 ○町内会との協働を進めるため、市民自治推進会議における取組として、町内会が抱えている町内会役員の高齢化や担い手不足の解決策の一つとして、町内会の加入促進に向けた支援を行う。	<p>【実施事業、実施年月日、参加人数、事業内容等】</p> <p>○町内会加入促進のモデル地区の支援として次の支援を実施</p> <p>平成28年 3月 町内会フェイスブック開設キックオフ説明会を実施 平成28年 4月 モデル地区の町内会フェイスブックページ開設 平成28年 5月 町内会フェイスブックページQRコードの作成 平成28年 7月 加入促進チラシの作成 平成28年 9月 下旬～10月上旬 加入促進チラシの配布（約320世帯） 平成28年10月 町内会加入促進モデル地区の取組について市広報紙に掲載 平成28年12月 町内会フェイスブック意見交換会（15町内会参加） 平成29年 1月 モデル地区の各部ごとの年間スケジュール等作成 平成29年 2月 モデル地区の町内会役員等を対象とした町内会加入促進研修会の実施（30人参加） 平成29年 3月 「町内会加入促進のモデル地区への支援 結果報告書」の作成</p> <p>【関係団体等】 モデル地区（第八区自治会）</p> <p>【反響等】 モデル地区の町内会活動の見える化が進んだ。また、町内会加入促進のモデル地区への支援を開始する前は、町内会フェイスブックを開設していた町内会は2町内会しかなかったが、支援の開始後は、モデル地区を含め9町内会に増えるなど、他町内会にも広がるといった反響があった。</p>
2	国際交流ボランティア事業 (市民自治推進課)	例年実施 ○国際交流や国際協力に関心のある市民に国際交流ボランティアとして登録してもらうことで、市民と共にまちの国際化を進めることを目的とする。	<p>【実施事業、実施年月日、事業内容等、参加人数】</p> <p>○国際化推進事業への参加協力（在住外国人との交流会・年2回）</p> <p>・ぐる～りWorld交流会 ①平成28年 8月28日 参加者90人 ②平成29年2月26日 参加者52人</p> <p>・国際理解講座 ①平成28年10月23日 参加者45人 ②平成29年1月19日 参加者50人</p> <p>○ボランティア講師による日本語教室の開講（通年3人） ○ホームステイ受入れ（6月11～12日：10家庭 3月10～12日：15家庭） ○通訳、翻訳の協力（5件13人）</p> <p>【関係団体等】 ○国際交流ボランティアの登録者数（129人）</p> <p>【反響等】 外国人との交流や異文化を理解するきっかけとなるなど、効果的である。</p>

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分 協働事業の目的	実施事業内容等
3	まちなかみんなのベンチ♪プロジェクト (まちづくり推進課)	単年度(新規)実施 ○駅前広場ロータリーを見渡せる場所において、バスを待つ利用者(高齢者)の皆さんから「バスの発着状況が見える停留所の近くでバスを待ちたい」との声があり、生徒、各種団体のみなさんと協力・連携して、ベンチを製作、観光協会前に設置した。	【実施年月日、参加人数等】 平成28年8月28(24人) 【関係団体等】 苫小牧工業高等学校、苫小牧東中学校、苫小牧建築大工技能士会、苫小牧塗装技能士会、道南バス、苫小牧市公共交通協議会等 【反響等】 ベンチ設置後、バスを待っている利用者(高齢者)に座っていただき、バスの発着状況が見える場所で、安心してバスを待てるようになった。本プロジェクトに携わった中学校・高校の生徒、各種団体の「苫小牧のまちなかをなんとかしたい」というまちづくりへの想いが高まった。子ども達、様々な団体の連携によりまちなかの課題が解決した。
4	第5回とまこまい得するまちのゼミナール (まちづくり推進課)	例年実施 (平成24年頃から継続実施) ○本事業を通し、市民にまちなかの商店街へ足を運んでいただくきっかけ作り、新たな顧客獲得へ繋げるとともに、商店街関係者同士のコミュニケーションの場を創出し、商店街活性化の機運を高めることを目的とする。	【実施年月日、参加人数等】 平成28年10月24日～平成28年11月30日(約390人) 【関係団体等】 苫小牧駅前通商店街振興組合、苫小牧駅通中心商店街振興組合 【反響等】 参加者からは、「大変楽しく勉強になった。」「お店を知るきっかけになった。」など好意的な意見を多数いただいた。商店街を知るきっかけ作りやまちなかへの興味をもってもらえる事業になったと考える。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分 協働事業の目的	実施事業内容等
5	災害時要援護者支援 プラン（避難行動要 支援者支援制度）の 構築 (危機管理室)	<p>例年実施 (平成19年から継続実施)</p> <p>○災害時に援護を必要とする高齢者・障がい者等の要支援者、いわゆる自分ひとりで避難したり、情報を得たりすることが難しい、手助けが必要な人に、近隣の地域、町内会・自主防災組織等の人たちが支える避難システムの構築。</p> <p>○現行のプランは、平成25年に東日本大震災での教訓を踏まえ、災害対策基本法が改正され、市町村長に「避難行動要支援者名簿」の作成が義務付けられるとともに、本人同意のもと避難行動要支援者名簿を地域の町内会・自主防災組織等に事前に提供する避難支援対策となり、その新制度による推進を図っている。</p>	<p>【実施年月日、参加人数、事業内容等】</p> <p>平成28年 5月13日 93人（自主防災組織の活動等に関する説明会） 平成28年 9月28日 75人（避難行動要支援者制度説明会）</p> <p>【関係団体等】</p> <p>市内で設置されている町内会・自主防災組織等の32町内会に導入。今後、ブロック毎・個別等の説明会等を実施して全町内会にシステムを構築していく。また、社会福祉協議会、苫小牧市消防本部・苫小牧市消防団、苫小牧警察署等の関係機関と協力・連動し構築の推進を図る。</p> <p>【反響等】</p> <p>災害時における情報伝達、安否確認などの具体的な避難支援等の実効性を高めることができ、特に要支援者は、安心感を持つことができたとの声があがっている。反面、地域の高齢化に伴い、支援の受け手に対して地域の担い手の人数が少ない等の問題が生じている。</p>
6	苫小牧自主防災組織 連合会・設立・運営 (危機管理室)	<p>例年実施 (平成28年から継続実施)</p> <p>○各自主防災組織のネットワークを構築し、情報の共有化を柱とした活動を推進。地域間の防災活動にみられる格差の解消、防災知識の向上を図る。</p>	<p>【実施年月日、参加人数】</p> <p>平成28年 5月13日 52人（設立総会） 平成28年 7月 7日 13人（専門委員会） 平成28年 10月23日 111人（津波避難合同訓練） 平成28年 11月17日 49人（意見交換会）</p> <p>【関係団体等】</p> <p>市内で設置されている町内会の自主防災組織50町内会 その他、防災訓練実施時には苫小牧市消防団、苫小牧警察署、明德小学校等の機関が参画</p> <p>【反響等】</p> <p>これまで町内会単位で実施されていた地域防災活動について、新たに具体的な情報共有体制が構築され、相互に情報交換や訓練、講座等の地域活動等がしやすくなる。</p>

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分 協働事業の目的	実施事業内容等
7	男女平等参画啓発推進事業 (男女平等参画課)	単年度(新規)実施 ○男女平等参画の実現に向け、関係団体等と連携し、専門講師による講演会を開催して啓発を図る。	【実施事業、実施年月日、事業内容等】 ○男女平等参画啓発推進事業講演会 「ひとりで悩まないで！男性介護～男女で支える介護の未来～」 平成28年12月17日 約100人 【関係団体等】 社会福祉法人苫小牧社会福祉協議会、苫小牧男女平等参画推進協議会 【反響等】 苫小牧市社会福祉協議会による介護相談ブース及びふくし大作戦！！2016による福祉用具体験・展示会との同時開催により定員を超える方に参加していただき、男女平等参画への意識の高揚が図られた。
8	「消費者月間」街頭啓発 (安全安心生活課)	例年実施 ○市と消費者団体、婦人団体との協働により、消費者被害防止の情報提供と市消費者センターの活用について街頭啓発。	【実施年月日、参加人数、事業内容等】 平成28年5月11日 安全安心生活課職員と計17人で啓発リーフレット1,000部配布 【関係団体等】 苫小牧消費者協会ほか4団体の協力 【反響等】 啓発リーフレットと絆創膏、ポケットティッシュを1,000部配布し、消費者被害防止に対する意識向上が図られた。
9	みんなの消費生活展 (安全安心生活課)	例年実施 (昭和54年頃から継続実施) ○消費者団体、市民団体等の出展により、暮らしに役立つ知識や情報を提供し、消費者意識の高揚を図る。	【実施事業、実施年月日】 平成28年11月19日・20日 【参加人数、関係団体等】 参加者約100人 苫小牧消費者協会ほか17団体 ・ステージ参加を含む民間出展7団体 約60人 ・消費生活展併催の「福祉・消費者ふれあい市場」出店9福祉団体 約40人 【反響等】 2日間で674人の来場者。出展した消費者団体等の取組を通じて、消費者意識の高揚が図られた。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分 協働事業の目的	実施事業内容等
10	苫小牧市資源リサイクル団体連絡協議会 (ゼロごみ推進課)	例年実施 (平成5年5月から継続実施) ○ごみの減量化及び資源の有効活用を目的に、市民と市の協働により集団回収が全市的な運動として促進することで、循環型社会の構築とまちづくりの推進を図る。	【実施事業、実施年月日、参加人数、事業内容等】 ○資源回収登録団体247団体（平成29年3月末現在）活動内容調査による状況把握 ○ホームページ、広報等による資源回収団体への情報提供 ○資源リサイクル団体連絡協議会総会、役員会開催による情報交換、連携強化（総会：7月21日、59名45団体、役員会7月14日） ○リサイクル施設の視察研修（7月21日） 研修先：王子製紙(株)苫小牧工場(参加人数27団体41名) ○リサイクルハウス設置助成による支援（6団体） ・苫小牧市リサイクルハウス設置事業助成交付金要綱－H19年11月1日施行 ○資源回収団体奨励金制度による支援（前期分195団体） ・苫小牧市資源回収団体奨励金交付要綱－H20年4月1日施行 【関係団体等】 町内会、老人クラブ、学校・PTA、同好会、各種団体等 【反響等】 市民と市民団体と市の連携により、資源回収登録団体数・回収実績も向上しており、ごみの減量化及び資源の有効活用が図られ、循環型社会の構築とまちづくりの推進につながっている。
11	苫小牧市エコストア認定制度 (ゼロごみ推進課)	例年実施 (平成20年頃から継続実施) ○環境に配慮している店舗をエコストアに認定し、広く市民に情報提供することで、市民と店舗と市が連携してごみの減量化やリサイクル活動に取り組み、循環型社会の構築に向けた環境にやさしいライフスタイルの確立とまちづくりの推進を図る。	【実施事業、事業内容、関係団体等】 ○エコストア認定店舗に対し、認定書及びプレートを交付し、提示してもらうことで啓発を図る。 ○ホームページ等による市民への情報提供 イオン北海道(株)苫小牧店、ホームワークKOYO、マックスバリュ有珠川店、ホクレンショップ沼ノ端店、マックスバリュ澄川町店、ホクレンショップ苫小牧店、ヘリテージキムラ、コープさっぽろステイ店、コープさっぽろ桜木店、コープさっぽろパセオ川沿店、コープさっぽろ栄町店、大師堂佛壇店、(有)ななかまど、マックスバリュ新花園店、マックスバリュ支笏湖通り店、手づくりとお菓子「自家焼」があがあん、(株)豊月フードD沼ノ端食彩館、(株)豊月フードD OASIS、(株)豊月フードD 双葉食彩館、(株)豊月フードD 見山食彩館、(株)メガスポーツスポーツオーソリティー苫小牧店、ビッグハウス明德店、炭火・自家焙煎珈琲「えちおび屋」、ビッグハウス光洋店、ビッグハウス明野店、コープさっぽろときわ店、フードD Vian、ホクレンショップFoodFarm苫小牧しらかば店（エコストア認定登録28店舗名） 【反響等】 市民と店舗と市の連携によるリサイクル意識の向上及び環境負荷への低減等が図られ、循環型社会の構築やまちづくりの推進につながっている。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分 協働事業の目的	実施事業内容等
12	レジ袋削減に向けた取組 (ゼロごみ推進課)	<p>例年実施 (平成20年頃から継続実施)</p> <p>○レジ袋削減に関する自主協定を締結し、三者一体となってレジ袋削減に向けた取組(レジ袋無料配布中止、マイバッグ持参運動等)を行うことで、ごみの減量化、限りある資源の有効活用やCO2発生抑制による環境負荷軽減・地球温暖化防止に向け、環境にやさしいライフスタイルを確立し、まちづくりの推進を図る。</p>	<p>【実施事業、実施年月日、参加人数、事業内容等】</p> <p>○事業者に対するレジ袋削減率等活動内容調査による現況把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度実績 (※28年実績は集計中) <ul style="list-style-type: none"> レジ通過客数 18,080,805人 レジ袋販売者数 2,490,853人 レジ袋辞退率 86.2% レジ袋削減枚数 18,270,738枚(重量約183t) <p>○ノーレジ・マイバッグ持参運動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページ等による市民へのレジ袋削減の呼びかけや各店舗の取組などの情報提供、啓発用のぼり配布等活動支援、各種イベントでのレジ袋削減、マイバッグ持参運動PRキャンペーン実施 <p>【関係団体等】</p> <p>○レジ袋削減に関する自主協定を締結</p> <ul style="list-style-type: none"> 苫小牧市消費者協会 協定締結事業者(イオン北海道株式会社、生活協同組合コープさっぽろ、株式会社豊月、株式会社ホクレン商事、マックスバリュ北海道株式会社、株式会社メガスポーツ、株式会社ラルズ、トライアルカンパニー) ※H29年3月末現在 <p>【反響等】</p> <p>市民と事業者と市の連携によりレジ袋有料化以降、マイバッグ持参率も高くなっており、ごみの減量・リサイクル推進及び環境負荷への低減等が図られ、循環型社会の構築、まちづくりの推進につながっている。</p>
13	「053(ゼロごみ)の日」(春・秋) (ゼロごみ推進課)	<p>例年実施 (昭和62年頃から継続実施)</p> <p>○清潔で住みよい町づくりのため自主的に清掃を行い、環境美化と清掃意識の高揚を目的とし、昭和62年度より「まちをきれいにする日」として実施。</p> <p>春と秋の年に2回実施し、平成24年度より「053(ゼロごみ)の日」と名称を改め、継続実施している。</p>	<p>【実施年月日、参加人数、関係団体等】</p> <p>平成28年 4月17日～5月16日 約19,783人 平成28年10月 1日～10月31日 約16,982人</p> <p>町内会、自治会(春12,970人、秋12,557人)、事業所(春1,779人、秋2,628人)、学校(春3,595人、秋1,280人)、子供・老人クラブ等その他の参加団体(春1,439人、秋517人)</p> <p>【反響等】</p> <p>まちぐるみで清掃を行った結果、長期間放置されたごみが拾われ、まちがきれいになったほか、市民の環境美化への意識が高まった。</p>

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分 協働事業の目的	実施事業内容等
14	苫小牧市環境美化活動事業 (ゼロごみ推進課)	例年実施 (平成27年頃から継続実施) ○苫小牧市内の環境美化を目的とし、市と町内会(自治会)が協働して事業を行う。	【実施事業、事業内容等】 (1) 地域の大掃除 (2) 不法投棄又は不適正排出のパトロール (3) 文書の配布又は看板の設置等による啓発 (4) 折りたたみ式ごみステーション設置の取りまとめ (5) ごみステーション周辺の清掃又は花壇の設置等による環境整備 (6) 団体間における環境美化に係る意見交換又は協議 【関係団体等】 81町内会・自治会(町内会・自治会の役員及び地域住民) 【実施年月日、参加人数等】 平成28年4月1日～平成29年3月31日 約40,000人 【反響等】 環境美化活動を町内会(自治会)と協働で実施することで、地域実情に応じた取組が可能となり、その結果、市民の環境美化への意識が高まった。
15	苫小牧市環境基本計画推進会議による実施事業 (環境保全課)	例年実施 (平成16年頃から継続実施) ○環境基本計画を推進するために、市民、事業者及び団体、市の三者で構成し、市民の環境意識を高めるために、地球温暖化対策や自然環境保全などの事業の実施に向けて企画及び行動を行う。	【実施事業、実施年月日、事業内容、参加人数等】 ○せせらぎスクール【悪天候により中止】 川の水生生物の採取、及び水質の状況を調査することにより、環境との関わり方を学ぶ。 ○輝く！エコ大賞～あなたのえ～こころ聞かせてください～ 募集 平成28年 8月 1日～10月31日 表彰式 平成28年12月22日 地球温暖化やごみの減量、ポイ捨てなどの諸問題についての「エコアイデア」、「ポスター」を募集し、環境基本計画推進会議で審査の上、アイデア編とポスター編の入賞者を表彰。入賞作品は刊行物への掲載や各環境関連事業に利用。 ○エコ企業見学会(平成28年10月26日 参加人数 14名) CO ₂ を分離・回収や資源回収の取組などを見学するなど、環境負荷低減の在り方を学ぶ。 ○環境エコ川柳・エコ短歌コンテスト 募集 平成29年 1月4日～2月17日 表彰式 平成29年 3月30日 環境にやさしい暮らしを表現したものをテーマとして環境に対する思いなどを「川柳」、「短歌」で表現していただき、環境問題を身近な問題のひとつとして再認識し、環境に対する意識を高める。 ○エコ・クッキング教室(平成29年3月21日 参加人数 20名) 地球温暖化防止ミニ講座や環境への負荷を減らす省エネ調理方法を学ぶ。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分 協働事業の目的	実施事業内容等
16	リーダー養成事業 (青少年課)	例年実施 ○さまざまな体験活動から積極的に社会参加するたくましい青少年を育成する目的でリーダー養成事業を行っているが、本事業は苫小牧市子ども会育成連絡協議会の後援事業であり苫子連主催の各種事業もリーダー養成認定事業であることから、各種事業に参加することでポイントが得られ、リーダー認定を行う制度を協働で行っている。	【実施事業、実施年月日、事業内容、参加人数等】 子ども会交流会 平成28年 6月25、26日 54人 子ども会スポーツ交流会 平成28年 9月24日 44人 子ども会カルタ大会 平成28年11月13日 23人 子ども芸術祭り 平成29年 1月18、19日 171人 【関係団体等】 苫小牧市子ども会育成連絡協議会 【反響等】 子ども達の育成について、市が単独で事業を実施するより協働して計画及び実施することで子ども達に多くの学習機会を提供することができ、また、多様な意見を聴取することで更なる事業の発展に繋がっていると考えている。
17	トマコマイククリーンアップ・サポーター制度 (緑地公園課)	例年実施 (平成14年頃から継続実施) ○住民等のボランティアにより道路や公園等の公共施設の清掃活動を行うことで、清潔で美しい街をつくる為。	【実施年月日、参加人数、関係団体等】 平成28年度 登録団体数 (37団体・3個人) 登録者数 1,862人 (うちパークゴルフ場維持管理を中心とした団体 13団体) 【反響等】 地域内の道路や公園がきれいに保たれている。また、パークゴルフ場は、芝刈り等の作業をして頂いていることから、多くの利用者に喜ばれている。
18	錦大沼公園内の錦大沼ハナショウブ園の維持管理 (緑地公園課)	例年実施 (平成22年頃から継続実施) ○錦大沼公園内の錦大沼ハナショウブ園において、はなしょうぶの会の会員と市職員と共に、草取りなどのハナショウブの維持管理作業を行い、経費削減と共にハナショウブ園の持続的な維持管理を行うことを目的としている。	【実施年月日、参加人数等】 平成28年4月下旬 約50人 【関係団体等】 ・はなしょうぶの会7団体 (苫小牧ヤクルト販売(株)、(有)アートスタジオNON、マルゼン食品(株)、(株)苫小牧中野自動車学校、北光印刷(株)、(株)華紋、公益社団法人苫小牧地方法人会) ・一般社団法人苫小牧観光協会 ・苫小牧ロータリークラブ 合計9団体 【反響等】 ハナショウブ園の管理に必要な草刈りにより、ハナショウブ園がきれいに保たれていると共に、委託による草刈回数が減り、経費削減と市民団体との協働作業によるPRに寄与している。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分 協働事業の目的	実施事業内容等																		
19	苫小牧市成人式の企画立案 (生涯学習課)	例年実施 ○成人式の式典の企画立案や成人式当日の運営に参画することで、主体的に行動する苫小牧市民としての自覚を深め、今後の積極的な生涯学習活動への参加を促す。	<p>【実施事業、実施年月日等】</p> <p>○成人式実行委員会</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>平成28年 8月14日</td> <td>第4回</td> <td>平成28年10月26日</td> <td>第7回</td> <td>平成28年12月 7日</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>平成28年 9月28日</td> <td>第5回</td> <td>平成28年11月 9日</td> <td>第8回</td> <td>平成28年12月21日</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>平成28年10月12日</td> <td>第6回</td> <td>平成28年11月30日</td> <td>第9回</td> <td>平成29年 1月 4日</td> </tr> </table> <p>○リハーサル 平成29年 1月7日</p> <p>○式典 平成29年1月8日</p> <p>【参加人数】 9人(延べ 89人)</p> <p>【反響等】 活動を通じて、これからの地域を担う主体としての自覚を深めるとともに、地域で活動する団体や市に対する理解・信頼を深めた。 ※ 平成29年苫小牧市成人式 出席者 1,254人(対象者 1,505人) 出席率 83.3%</p>	第1回	平成28年 8月14日	第4回	平成28年10月26日	第7回	平成28年12月 7日	第2回	平成28年 9月28日	第5回	平成28年11月 9日	第8回	平成28年12月21日	第3回	平成28年10月12日	第6回	平成28年11月30日	第9回	平成29年 1月 4日
第1回	平成28年 8月14日	第4回	平成28年10月26日	第7回	平成28年12月 7日																
第2回	平成28年 9月28日	第5回	平成28年11月 9日	第8回	平成28年12月21日																
第3回	平成28年10月12日	第6回	平成28年11月30日	第9回	平成29年 1月 4日																
20	障がい者IT学習支援事業 (生涯学習課)	例年実施 (平成19年頃から継続実施) ○行政とボランティア団体がパートナーシップ協定を結び、まちづくりに関する地域の目標や課題を共有し、相互の役割分担を明確にしなが ら、対等の関係で協力し合い、本市の生涯学習を推進する。	<p>【実施事業、実施年月日、事業内容、参加人数等】</p> <p>○肢体障がい者パソコン教室 平成28年5月14日～平成29年1月14日 第2土曜日・第4金曜日(計15回) 受講66人 ボランティア99人</p> <p>○視覚障がい者パソコン教室 平成28年5月14日～平成29年2月1日 第2土曜日・第1水曜日(計15回) 受講75人 ボランティア93人</p> <p>【関係団体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者パソコンボランティア友の会 ・身体障害者福祉連合会(視覚障害者協会・肢体障害者協会) ・パソコン教室受講者 ・NPO法人札幌チャレンジド <p>【反響等】 協働の過程を通じて、ボランティア団体の構成員である市民が地域の主体としての自覚を深め、市民相互又は市民及び市における理解と信頼を深めることができた。</p>																		

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分 協働事業の目的	実施事業内容等
21	朗読とギターの夕べ (中央図書館)	例年実施 (平成23年から継続実施) ○市内朗読サークルの協力を得ることで、図書館単体では提供できない芸術・文化鑑賞機会を提供すると共に団体に対しては活動の発表機会を提供するもの。	【実施年月日、参加人数、関係団体等】 平成28年7月30日 参加者約75人 ・朗読セゾン 花音の会 【反響等】 成人を対象とした文学作品の朗読事業として好評を頂いた。市民に対して文化鑑賞の機会を提供するという面で大きな効果があった。実施後、翌年度の内容・形式について意見が出る等、高い意欲を感じられた。
22	本のぼくりっこ市 (中央図書館)	例年実施 (平成22年から継続実施) ○図書館と図書館ボランティアグループ等が協力し、図書館に寄せられた本と市民の持ち寄る本を交換することで、本の再利用と図書館の利用促進を図る。	【実施年月日、参加人数、関係団体等】 平成28年7月31日 ボランティア 11人 参加者 136人 ・図書館ボランティアグループ 【反響等】 図書館とボランティアグループが協力して実施することで、ボランティア間の親交を深める場にもなっている。交換参加の市民からも好評を得ており、図書館と市民の交流に役立っている。
23	子ども俳句教室 (中央図書館)	例年実施 (平成27年度から継続実施) ○児童を対象として俳句を作る楽しさを体験してもらう。俳句・文学に触れてもらうことで、読書活動へ関心を持ってもらうことを目的とする。	【実施年月日、参加人数、関係団体等】 平成28年7月31日 参加者4人 ・苫小牧俳句協会 【反響等】 参加児童からは好評をもらえたが、周知不足により参加者数が伸び悩んだ。協働団体からは次年度以降の実施について前向きな意見を頂いており、今後も児童が文学に触れる機会として実施していく。
24	青空子どもとしゃかん (中央図書館)	例年実施 (昭和62年頃から継続実施) ○図書館と図書館の読み聞かせボランティアグループが協力し、通常館内で行われる読み聞かせを屋外で楽しんでもらう取組。	【実施年月日、参加人数、関係団体等】 平成28年8月4日 b 参加者272人 ・にじのはし、苫小牧子どもの本の会、でんでん虫サークル 【反響等】 図書館と複数のボランティア読み聞かせグループが協力して実施することで、日常の図書館活動における関係づくりの一助となっている。28年度は実施に際して協働団体との協議を念入りに行い、新しい形式を取り入れた。参加者も増加し好評を頂いた。
25	朗読研修会 (中央図書館)	例年実施 (平成26年頃から継続実施) ○図書館の対面朗読サービスに協力いただいているボランティア団体に対し、研修機会を提供することで、サービスの質的向上を図り、ひいては市民サービスの向上を目指す。	【実施年月日、参加人数、関係団体等】 平成28年9月16日 参加者17人 ・苫小牧市朗読赤十字奉仕団 【反響等】 講師からの技術指導を受けることで、参加者のモチベーションの向上、朗読資料作成の技術向上につながった。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分 協働事業の目的	実施事業内容等
26	真珠まりこ 講演会 (中央図書館)	単年度(新規)実施 ○共催団体と図書館で講師を招聘し、団体員に活動への学習機会を、市民には著名な絵本作家からの講話による読書活動の促進を図るもの。	【実施事業、実施年月日、参加人数、関係団体等】 ・「もったいないばあさんのおはなし会」 平成28年10月16日 参加者97人 ・苫小牧読み聞かせ文庫活動連絡会 【反響等】 共催団体会員による周知効果により、広く市民に事業を周知・参加してもらうことが出来た。また、参加した市民からは、児童、一般とも好評であり、読書推進に効果があった。
27	おはなし玉手箱 (中央図書館)	例年実施 (平成27年度から継続実施) ○図書館で活動する団体に活動発表の場を設定し、図書館利用者に対して朗読・読み語り活動という文化活動に触れるきっかけとなる事を目的とする。	【実施年月日、参加人数、関係団体等】 平成28年11月2日 参加者44人 ・朗読サークル びーどろ、絵本の森、でんでんむしサークル、子どもの本の会、おはなしオルゴール、朗読サークル花音、にじのはし 【反響等】 児童向けではない、成人を対象とした文学作品の朗読事業として好評を頂いた。発表団体からも充実した事業だったとの反響を得た。協働団体の活動紹介、将来的な参加者の開拓としても機能している。
28	図書館文学講座 (中央図書館)	単年度(新規)実施 ○市民を対象として、児童文学作家の講師に活動内容・文学についての講和をしていただく。市民に文学に親しんでもらい、読書への距離を縮めることを目的とする。	【実施事業、実施年月日、参加人数、関係団体等】 ・「文学で何が出来るだろうか～「ホシコ～星を持つ馬」の場合」 平成28年11月19日 参加者 約70人 ・加藤多一文芸講演会実行委員会 【反響等】 有志からなる実行委員会と協力したことで、市内文化団体・活動に関わる市民の交流を持つことができた。講演も好評であり、図書館の児童書利用にも良い影響があった。
29	定例お話し会 おはなし広場 (中央図書館)	例年実施 (平成元年から継続実施) ○図書館ボランティア読み聞かせグループ等の協力を得て、子どもたちの読書活動の推進を図る。	【実施年月日、参加人数、関係団体等】 平成28年4月～平成29年3月まで ボランティア 216人 イベント参加者 1,011人 ・図書館ボランティア読み聞かせグループ等 【反響等】 図書館と図書館ボランティア読み聞かせグループ等が協力して実施。参加している市民からは、図書館を訪れるきっかけになると好評を得て継続している。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分 協働事業の目的	実施事業内容等
30	市民のための医学講座 (中央図書館)	単年度(新規)実施 ○専門機関と協働することで参加市民に幅広い情報に触れてもらい、図書館の活用方法について関心を持ってもらうことを目的とする。	【実施事業、実施年月日、参加人数、関係団体等】 ・「大腸がんをもっと知ろう」 平成28年11月19日 参加者約70人 ・苫小牧市立病院 ・王子総合病院 【反響等】 専門家から詳細な情報を聞けたため、参加市民からは好評であった。事業後に図書館内に設置した特設コーナーの利用も好評である。
31	選挙時及び常時選挙啓発 (選挙管理委員会事務局)	例年実施 (常時選挙啓発は、平成27年から継続実施) ○市民の政治参加意識の向上および選挙の大切さを伝え、投票参加を促す。	【実施年月日、参加人数、関係団体等】 平成28年 5月13日 33人 平成28年 7月 3日 34人 平成28年10月28日 16人 平成29年 2月 4日 9人 ・苫小牧市明るい選挙推進協議会 【反響等】 同協議会の会員(ボランティア)の登録人数が過去最高を記録するとともに、昨年の参議院選挙では、投票率が前回同選挙より1.83ポイント上昇した。
32	苫小牧市美術博物館ボランティア運営登録事業 (美術博物館)	例年実施 (平成25年6月から継続実施) ○美術や博物事業に関する見識や熱意を有する方々の協力を得て、市民と協働した美術博物館活動を組織的に推進し、館事業の円滑な運営を図るため、ボランティア登録制度を導入し、活動を行うために必要な支援を行う。	【実施事業、実施年月日、事業内容、参加人数等】 平成28年4月15日～平成29年3月31日(登録者 33名) ○各企画展の受付・案内・監視業務 1人あたり約10回の活動実績 ○ボランティアのための研修会 9回の開催(延122名参加) 【反響等】 各展覧会において、受付・案内・監視業務をしていただいたことで、職員の業務負担が軽減され、別の業務を行うことができた。監視業務においては、気づいたことや観覧者からのご意見など学芸員に伝えていただき、細やかな対応をすることができた。また、年9回の研修会を通して、当館の事業に対する理解を得られたと同時に展覧会前の展示解説等は好評を得ている。